

「中国南京研修 参加報告書」

京都大学文学部2年 手代木さづき

- ① 回の中国語研修に参加するにあたって、私はとにかく中国語をたくさん話すという目標を立てた。この目標を達成するべく、出会った人と積極的に会話をするように心がけた。だが今振り返ると、もっと貪欲になれたと思う。南京で中国語を勉強する中で自分に起きた一番大きな変化は、ふとした瞬間に中国語でものを考えるようになっていたことだ。研修に参加する以前は、中国語をペラペラになって帰国しようと思っていたが、実際には自分の語学能力の未熟さを思い知らされ、中国語学習に対する気合を入れ直す契機となった。中国の大学院に進みたいという思いも少しあるので、その時には中国語で不自由しないように、その時までにはしっかり勉強しようと思う。また、留学する土地の方言も話せるようになりたいと思う。
- ②南京に出発する前に一番不安だったことは、南京人は日本人を嫌っているのではないかということだった。そのため、現地にいるときも、あまりに日本人だと名のりたくなかったし、できる限り中国人のように振る舞おうとしていた。今思えば、このことは杞憂であったように思う。滞在期間を通して、自分が日本人であると言っても、いやな顔をされたりすることはなかった。一方で、現地のテレビでは日本との戦争を題材にしたドラマが毎日のように放送されていて、中国人は日本人よりも戦時中の記憶を鮮明に持っているのではないかと思った。もちろん日本人も、戦時中に日本人がしたことを知らなければならないと思う。ところで、中国で一番驚いたことは、中国人の太っ腹さである。両親の友人などに会いに行った際に、こちらが申し訳なくなるくらい歓迎された。初めは慣れずに大変恐縮していたのだが、彼らが日本に来た時に同じくらいもてなそうと考えて、思い切りお世話になることにした。中国の人々のあたたかさ、豪快さ、そして律儀さに触れた南京滞在であった。
- ③毎日午前中に中国語の授業があり、午後は時折太極拳の授業があり、そのほかは南京観光をしたりして過ごした。今回の中国語研修で最も印象深かったのは、海外からの長期留学生と共に授業を受けたことだ。私は、前半はアメリカ人学生のクラスで、そのクラスが終了してからは他の長期クラスに混ざって学習した。特に、アメリカ人学生たちの学習意欲はかなり高く、私も負けじとたくさん発言するように努力した。彼らの速くて流暢な中国語を聞き取ることは、リスニングの良い練習になった。彼らと受けた授業は、今まで受けた中国語の授業の中で一番刺激的な授業であった。様々な国の人と中国語で会話することはとても楽しく、周りの留学生たちの姿を見て、私の中国語学習への意欲がますます上がった。
- ④私は、漠然と東洋史専修に進もうと考えていたが、どの時代を研究するのか等をあまり考えていなかった。だが今回の南京滞在を通して、中国の近代史にひかれている自分に気づいた。また、上海にて以前からの知り合いに再会した際に、自分の進路について、若い頃にいろいろなことを試して、自分に何があるのか、自分が本当に好きなことは何なのかを見極め、自分の一生の仕事にできることを見つけなさいというアドバイスを頂いた。今まで、直観的に生きることが多く、将来は研究者になるのだと漠然と決め込んでいた私に、この忠告は新しい風穴を開けてくれた。自分の将来について、じっくりと考え直すきっかけをくれた旅となった。